

恐竜 Dinosaurs



恐竜博物館
ニュース

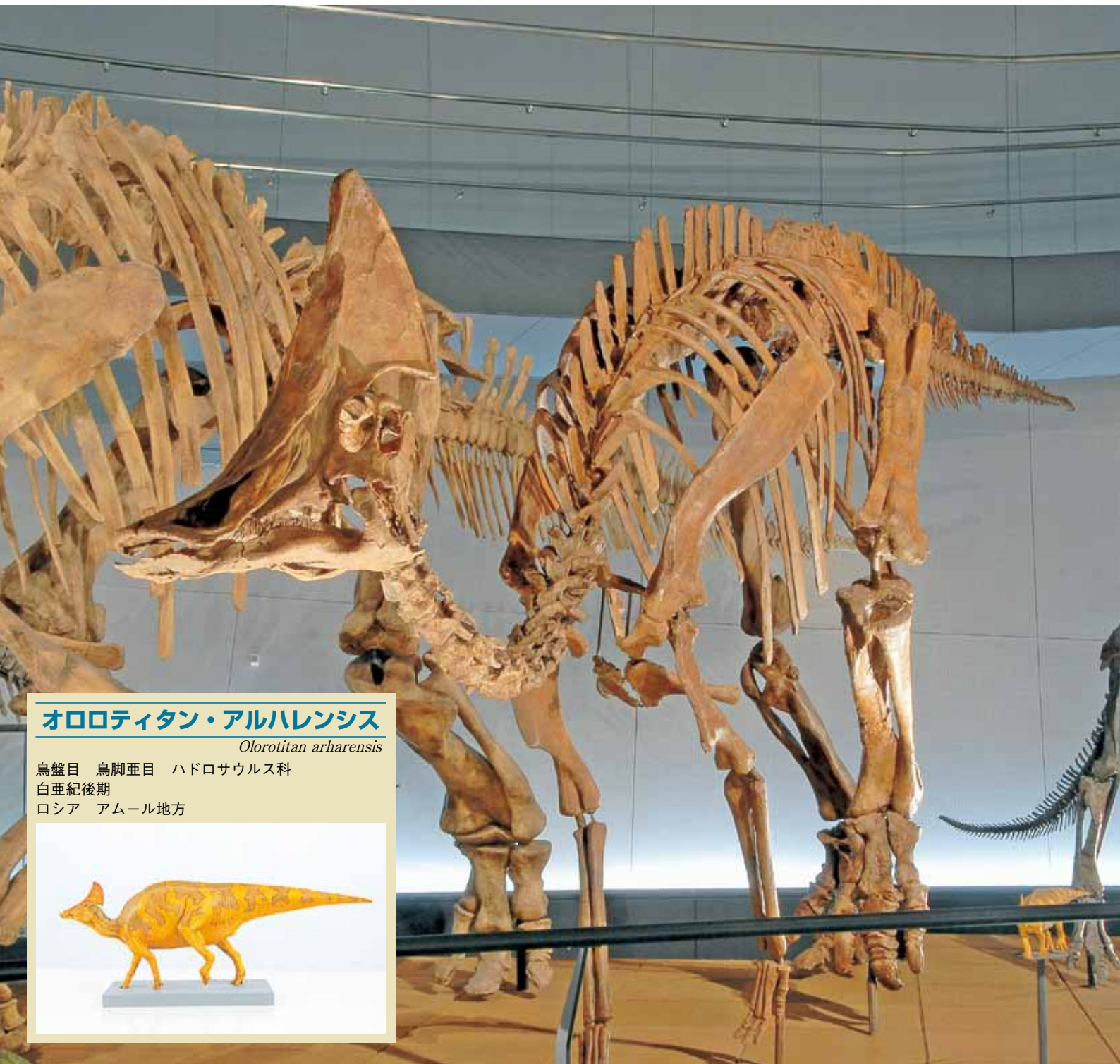
第32号

2011.3.15

福井県立恐竜博物館

連載：日本の地球科学の生い立ち③

- 目次 ▼日本の地球科学の生い立ち③ … 2～3 ▼博物館トピックス「恐竜博物館この1年のあゆみ」… 4～5
▼平成23年度特別展紹介／フクイティタンとは … 6 ▼研究員のページ「続・中国での恐竜化石共同発掘調査」
／レストラン「フクイラトル丼」／グッズ「ラトルフィギュア」… 7
▼2011年4月～7月催し物案内 … 8



オロロティタン・アルハレンシス

Olorotitan arharensis

鳥盤目 鳥脚亜目 ハドロサウルス科
白亜紀後期
ロシア アムール地方



新しい展望を拓いた古地磁気学



富山大学名誉教授 広岡 公夫

日本の岩石磁気研究の進展

残念ながら、1930年代は日本の研究者の活躍は知られていません。しかし、40年代の後半に入ると日本での組織的な研究が始まります。松山基範先生を日本の岩石磁気・古地磁気研究の先駆者とする、40～50年代は、日本の岩石磁気研究の第一世代の時代といえます。この時期には多くの研究者が輩出されました。その筆頭が東京大学の地球物理学教室の永田 武 先生です。永田先生が日本の火山岩についての研究に着手したことで、日本での岩石磁気研究の進展が始まりました。先生は、火山岩の自然残留磁化の測定や帯磁率測定、帯磁率の温度変化など、含まれる磁性鉱物の磁気特性を詳細な実験で明らかにし、熱残留磁化獲得のメカニズムとその安定性について吟味した上で、噴出年代が既わっている溶岩の自然残留磁化方位を測定し、日本における地磁気の永年変化を求める試みをしました（Nagata, 1943他多数の論文がある）。これらの一連の研究で、火山岩から過去の地球磁場方位を復元するという古地磁気研究の道が拓かれたのです。1953年に、その集大成としての著書「Rock Magnetism」が丸善株式会社から出版されました。この本は、後から参加した我々岩石磁気・古地磁気研究者にとっては唯一の教科書でした。残念ながら、読者数の少ない専門書であっ

たために、すぐに絶版になってしまい、手に入れるのが難しい本でした。

1940年代後半から50年代は、日本も含めて世界で岩石磁気・古地磁気学に研究が飛躍的な発展を遂げる時期でした。特に、英国の台頭が特筆されます。ロンドン大学のBlackett教授のグループとRuncorn教授率いるニューカッスル大学のグループが競って研究を進めました。ロンドン大学グループは、大英帝国の遺産である旧植民地を中心に、南半球にある大陸とインド半島の各地質時代の岩石試料を採集し、ニューカッスル大学グループはヨーロッパ大陸と北米大陸の同時代の岩石・地層の残留磁気を比較したのです。

ロンドン大学グループが得た結果からは、現在南半球にある大陸とインド半島が、2億5千万年以上前にはもっと南極に近いところであって、南極大陸にくっついてひとかたまりになっていたことがわかりました。地質と化石の研究から推定されていた Gondwana

超大陸を形成していたのです。一方、ニューカッスル大学グループの結果は、5億年前頃のヨーロッパと北米大陸から見た磁極の位置が赤道地域にあり、その後、時代の経過とともに時計廻りの曲線を描きながら現在の北極に向かうという軌跡を描きました。さらに驚くことに、1億年以上前の時代では、それぞれの極移動曲線が相似形を描きながら経度にして約30°ずれていたのです。これでは、北磁極が2つ同時に存在することになるのですが、地球が現在と同じような大きな一つの磁石で、北磁極も一つならば、あり得ないこととなります。この矛盾を回避するには、大西洋を閉じるように北米大陸を約30°東へ動かすことです。そうすれば2つの極移動曲線を重ね合わせることができて、北米とヨーロッパが隣り合うこととなります（図1）。ウエゲナーの大陸移動説の通りになったのです。このように、1930年代に否定された大陸移動説が古地磁気の研究によって息を吹き返したのです。

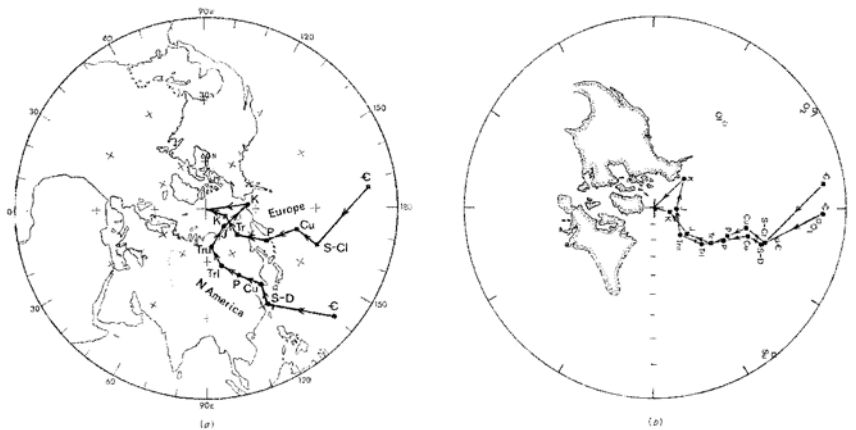


図1：(a) ニューカッスル大学グループが求めたヨーロッパと北米大陸の磁極移動曲線。
(b) 大西洋を閉じるように北米大陸を動かすと両移動曲線は重なり合う。
C: カンブリア紀、S-Cl: シルルー-石炭紀前期、S-D: シルルー-デボン紀、Cu: 石炭紀後期、P: ヘルム紀、Tr: 三畳紀、Trl: 三畳紀前期、Tru: 三畳紀後期、J: ジュラ紀、K: 白亜紀。(McElhinny, 1973による)

日本では、永田研究室から続々と若手の研究者が輩出し、一大勢力となりました。秋本俊一、上田誠也、小嶋稔、小林和男の諸先輩です。秋本さんは磁性鉱物の構造や磁化特性の研究を進めた後、超高圧物性と鉱物合成の分野で成果を挙げました。上田さんは、群馬県の榛名山の岩石で、逆転磁化を見つけましたが、その岩石を実験室で再加熱—冷却すると、実験室内の地球磁場方位と逆方向の残留磁化を持つことになるという自己反転現象の発見となったのです(Nagata, Uyeda & Akimoto, 1952)。これによって、地磁気の逆転に疑問が持たれ、それが証明されるのは1960年代まで待たなければなりません。というのは、1949年と55年にフランスのグルノーブル大学のNéel教授が2種の化合物磁性体が共存している場合には、作用している磁場と逆方向の残留磁化を獲得するという自己反転現象の可能性を理論的に指摘していたからです。上田さんが見つけた榛名山の火山岩は自己反転の証拠とされ、地磁気が逆転するなんて考えられないと思っていた研究者たちを勇気づけたのです。Néel教授はこの化合物の磁性の研究によって1970年にノーベル物理学賞を受けています。

また、上田さんは、地球科学のベストセラーといえる岩波新書の「新しい地球観」を出されたことでも有名です。小嶋さんは、チタン磁鉄鉱—チタン赤鉄鉱の固溶体について、その磁性について詳しい研究をした後、年代測定と同位体地球化学に研究テーマを転じて業績を上げました。小林さんは残留磁化獲得のメカニズムについての研究から、海洋底地球物理学へと進みました。

一方、京都大学地質学鉱物学教室では、松山先生の後継者の川井直人先生を先頭に、久米昭一、伊藤清明、安川克己諸先輩のグループが活動を開始し、東西2グループが競って岩石磁気・古地磁気の研究に打ち込んだのです。戦後すぐの時代で日本から海外に行くことができなかつた1950年代に、川

井グループは日本中で岩石試料を採集し、測定を行いました。その結果、中生代以前の岩石には、東北日本と西南日本の残留磁化方向に違いのあることを見いだしました。すなわち、東北日本では偏角が真北から西に振れているのに対して、西南日本では東に振れているのです。本来、日本列島くらいのサイズでは、東北日本も西南日本もともに北向きのほぼ平行な偏角を示すはずなのです。事実、新第三紀の岩石は本州全体で同じ北向きの偏角を示しています。このことから、川井さんらは、中生代には本州はまっすぐのびた棒状の形であったのが、新第三紀までのある時期に本州中央部を境にして、東北日本は反時計回りに、西南日本は時計回りに回転したという「日本列島の折れ曲がり説」を発表しました(Kawai, Ito and Kume, 1961)。松山先生の地磁気逆転説を除けば、この日本列島折れ曲がり説が日本における最初の「古地磁気学」的研究といえます(図2)。

50年代の末にはもう一つ重要な研究がなされました。東大人類学教室におられた渡辺直経先生の日本における考古地磁気研究です。先生は、博士論文の研究のため、永田研究室に弟子入りして、考古地磁気の研究を始めたのです。戦後ようやく再開された日本各地の遺跡の発掘現場をまわって、炉跡や窯跡などの焼土を測定試料として採集しました。関東中心の縄文遺跡や各地の弥生・古墳時代の遺跡、古代須恵

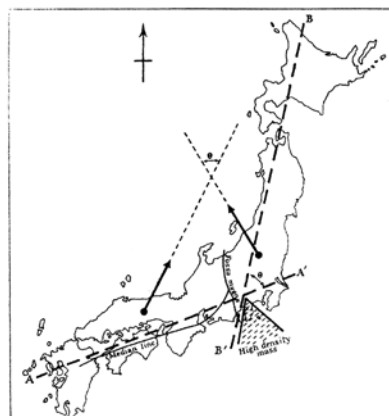


図2：日本列島(本州島)の折れ曲がり(Kawai, Ito & Kume, 1959)による。

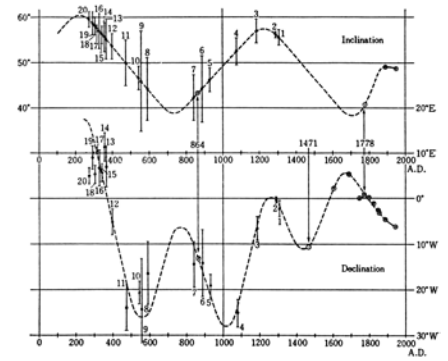


図3：日本における過去1700年間の地磁気永年変化
Inclination：伏角、Declination：偏角

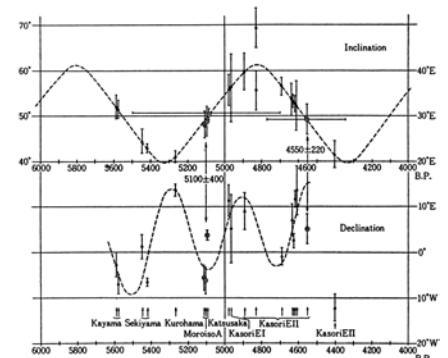


図4：縄文時代(B.P.5600～4400年)の地磁気永年変化
Inclination：伏角、Declination：偏角
(図3、4：渡辺, 1977による)

器窯・中世陶器窯などが網羅されていました。

その結果、日本ではじめて、過去1700年間(AD300～1950年)と、縄文時代(B.P.5600～4400年)の地磁気偏角・伏角の永年変化曲線が得られたのです(図3と図4)。両期間ともに、偏角は25°～35°、伏角は20°余りという結構大きな変動をしていたことがわかりました。この成果は渡辺先生の博士論文として、東大理学部紀要に掲載されています(Watanabe, 1959)。

この研究によって日本のこの分野の三本柱(岩石磁気・古地磁気・考古地磁気)が揃ったことになり、本格的な研究が始まります。

次の60年代は日本の研究人口もさらに増え、その上、「プレートテクトニクス」が登場するという地球科学の大転換が行われました。それらを含めて、この続きは次回にまわしたいと思います。

(次号につづく)

「恐竜博物館この一年のあゆみ」

(2010年4月～2011年3月)

当館は、2000年7月に開館してから10年目を迎えました。それを機に、常設展のリニューアルや開館10周年記念特別展の開催などを行うとともに、開館10周年を前面に打ち出し、例年以上に当館のPRや誘客活動を積極的に図りました。

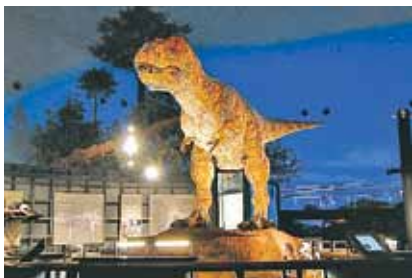
常設展のリニューアル

①「恐竜の世界ゾーン」のリニューアルで追加した資料(7月)

- ・カマラサウルスの産状
- ・ティラノサウルスのロボット
- ・ケラトサウルス(全身骨格)
- ・オルニトミムス(全身骨格)
- ・コンコラプトル(全身骨格)
- ・カルカロドントサウルス、アクロカントサウルス、スコミムスの頭骨
- ・オロロティタン(全身骨格)
- ・クライトンサウルス(全身骨格)
- ・福井県勝山市産のドロマエオサウルス類、フクイティタン、北海道中川町の恐竜、長崎県の恐竜

②「生命の歴史ゾーン」のリニューアルで追加した資料(2月)

- ・アーケロン(全身骨格)
- ・ドルドン(全身骨格)
- ・パキケタス(全身骨格)



ティラノサウルスロボット



カマラサウルスの産状

開館10周年記念特別展の開催

開館10周年記念特別展「アジア恐竜時代の幕開け」を開催しました。入場者数が過去最高を記録するなど、大変好評を博しました。

期 間：2010年7月9日(金)
～11月7日(日)122日間
入場者数：188,793人

年々増加する入館者

常設展のリニューアルや開館10周年記念特別展のPRを大々的に行ったことやマスメディアによるPRで当館の認知度が上がり、口コミの効果も浸透してきたこともあって、入館者数が徐々に増えました。

2010年11月27日に4月からの入館者数が43万9760人となり、過去最高を記録した昨年入館者数を上回りました。

マスメディアによるPR

開館10周年が話題を呼び、マスコミに数多く取り上げられました。NHKや民間放送局で、当館を題材にした番組が製作放映されました。

主な紹介番組は次のとおりです。
NHK「ふるさと一番」(4/13)、NHK BS2「熱中スタジアム」(4/30、5/7)、フジテレビ「めざましテレビ」(6/9)、フジテレビ「熱血 平成教育学院」(7/4)、NHK「ウィークエンド中部」(7/3)、テレビ大阪「恐竜ハンター」(7/19)、NHK「週刊子どもニュース」(7/25)、BSフジ「平成教育学院・放課後」(8/21、9/4)、NHK「金とく～福井発！ようこそ恐竜王国へ」(9/24)、テレビ朝日「SmaSTATION!!!」(11/6) ※()は放送日

出前PR展の開催

県内はもとより東京や大阪をはじめとする全国各地でPRを行い、認知度向上に努めています。

(1) 福井県内でのPR

●イベントなどでのPR

「2010日本APECエネルギー大臣会

合 恐竜全身骨格展示」(ホテルフジタ福井)や「アクアトム恐竜展」(敦賀市アクアトム)などにおいてPR展を開催し、フクイラプトル骨格標本やパネル展示などを実施しました。

●ホテルや旅館などでのPR

ホテルフジタ福井をはじめ、県内の宿泊施設に骨格標本や模型、恐竜博士ベンチ等を貸し出しました。

(2) 県外でのPR

●首都圏でのPR

「ドーンと福井in神楽坂 越前・若狭まつり」(東京都新宿区神楽坂通り)や「丸の内地球市民ギャラリー 恐竜展」(東京駅丸の内北口地下通路)ほかで、恐竜骨格やさわれる化石、恐竜博士ベンチなどを展示し、PRを行いました。

また、3月12日から6月12日まで東京タワーで「大恐竜展in東京タワー」を開催しています。

●大阪でのPR

「大恐竜展」(大阪市立自然史博物館)や「ユニバーサルポート5周年コラボイベント」(ホテルユニバーサルポート)、「ダイノKIDS 恐竜王国ふくい恐竜ワンダーランド2010」(キッズプラザ大阪)ほかで、恐竜骨格やさわれる化石、紹介パネル、恐竜博士ベンチなどを展示し、PRを行いました。

●その他の地域でのPR

石川県(「恐竜の王国2010」(金沢市名鉄エムザ)ほか1会場)や静岡県(2会場)、滋賀県(2会場)において、恐竜骨格やさわれる化石などを展示し、PRを行いました。

館内での催し物

各機関と協力して館内で様々な催し物を行い、来館者に楽しんでいただきました。

●恐竜博士のめがねの贈呈

4月に鯖江市からチタン製の恐竜博士のめがねが贈られました。恐竜博士は国内外で恐竜博物館をPRしており、このめがねをかけてますます活躍しています。

●地方自治法施行60周年記念貨幣の引き替え

財務省が発行した地方自治法施行60周年記念貨幣の福井県の図柄に、フクイラプトルとフクイサウルスが採用されました。当館においても、2010年7月から3か月間、記念貨幣の引き換えが行われました。



●巨大恐竜絵画の展示

福井県出身の画家・服飾デザイナーのMAGO氏が描いた巨大恐竜絵画を7月から4か月間3階ロビーに展示しました。この絵はフクイラプトルをライブペインティングしたもので、来館者はその迫力に驚いて見入っていました。

●カマラサウルスのクリーニング体験

夏休み期間中に、小学生を対象に化石クリーニング室でクリーニング体験を実施しました。2009年に購入したカマラサウルスの実物化石を使った企画で、体験した子供たちは当館でしかできない体験に興奮していました。

●「おまえうまそうだな」おはなし会の開催

8月に3階講堂において、ポプラ社による「おまえうまそうだな」のおはなし会が行われました。参加した子供たちは、超大型絵本やティラノサウルスの着ぐるみの登場に大喜びでした。



●幼稚園・保育園が描いた恐竜の絵の展示

11月1日と2日の両日に、勝山市内のすべての幼稚園と保育園の児童を当館に招待しました。その時にいただいた各園からの開館10周年をお祝いした絵を今年度いっぱい3階ロビーで展示しています。

●「見どころ ダイノツアー」の開催

1月から2月まで、展示解説員が案内する「見どころダイノツアー」を実

施しました。恐竜や当館の魅力がわかりツアー参加者には大変好評でした。

民間企業等との連携

企業とタイアップして商品開発の支援等を行うことにより、来館者の利便性向上とPRの促進を積極的に図りました。

●勝山滝波郵便局

ミュージアムショップでの展示標本を中心としたポストカードの販売に合わせ、郵便局(株)勝山滝波郵便局の協力を得て、博物館入口付近に、4月末に郵便ポストを設置しました。

●郵便局(株)北陸支社

7月に郵便局から開館10周年を記念した恐竜切手が販売されました。当館においても、特別展期間中、臨時郵便局が開設されました。

●京福バス(株)、(株)JTB

夏休み期間中、JR西日本(株)が福井駅から当館までの直行バスを運行しました。また、(株)JTBでは、名古屋と大阪方面から恐竜博物館などをめぐる恐竜ラッピングバスを運行しました。

●任天堂(株)

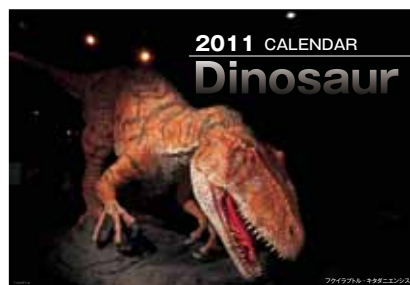
11月に、(株)任天堂からニンテンドーDS[®]用ゲームソフト「スーパーカセキホリダー」が発売されました。このゲームソフトの製作にあたっては当館が協力し、ゲーム中の恐竜図鑑の監修などを行いました。



スーパーカセキホリダー

●朝日印刷(株) (福井県勝山市)

12月に朝日印刷(株)が「Dinosaur 2011カレンダー」を発売しました。カレンダーには館内の人気のあるスポット14か所の写真が盛り込まれています。



Dinosaur 2011 カレンダー

●(株)ふじや食品

2011年に(株)ふじや食品が「恐竜プリン」「恐竜玉子豆腐」を発売します。商品には当館の紹介や当館が監修した恐竜カードが入っています。

発掘・研究成果の発表

●勝山産竜脚類の学名発表

6月に、第3次恐竜化石発掘調査(勝山市北谷町)で発見された竜脚類が新属新種として認められ、学名「フクイティタン・ニッポネンシス」が付けられました。日本で新種として学名をつけられた恐竜は4つめで、本県では3つめの恐竜となりました。

●長崎県との共同発掘・研究発表

当館主任研究員と熊本県御船町恐竜博物館学芸員が長崎市野母崎で発見した化石を当館でクリーニングしたところ、ハドロサウルス科に属する恐竜の左大腿骨遠位部と判明しました。これは、長崎県から発見された最初の恐竜化石です。

●海外恐竜化石発掘調査発表

9月から10月に中国浙江省と河南省で中国の関係機関と共同で発掘調査を実施したところ、ヨロイ竜類の頭骨や皮骨、足跡化石などが多数発掘されました。今後、クリーニングを進める予定で、研究の成果が期待されます。

海外の研究機関との姉妹提携

中国地質科学院地質研究所(7月)ならびに中国河南省地質博物館(9月)と姉妹提携を締結しました。今後は、展示や教育普及活動、共同研究を通してさらに交流を深めていくとともに、双方の貴重な化石資料を核とした特別展などを開催していきます。

(佐々木 智宏)



中国地質科学院地質研究所との姉妹提携

平成23年度特別展紹介

特別展「新説・恐竜の成長

— The Growth and Behavior of Dinosaurs —

期間：平成23年7月8日(金)～10月10日(月・祝)

福井県立恐竜博物館では、2011年7月8日(金)から特別展を開催いたします。今回の特別展は、恐竜研究の最新トピックスを中心に構成します。

タイトルは「新説・恐竜の成長— The Growth and Behavior of Dinosaurs —」。モンタナ州立大学付属ロッキー博物館の門外不出の貴重な恐竜化石を展示し、世界的恐竜研究者ジャック・ホーナー博士の監修で恐竜の成長とそれともなう行動の違いを紹介します。

中生代に地球を支配していた恐竜たちは、地上のあらゆる場所で生活し、



モンタナ州立大学付属ロッキー博物館

その存在を示してきたに違いありません。しかし、化石記録として残され、研究されるのはそのごく一部。その“断片的な情報”を元に、恐竜は分類され、研究が進められています。

そのような状況では、1つの場所、あるいは同時代の同地域から見つかった同じグループに属する恐竜たちには、常にある一つの疑問がつきまといまいます。「これらは別の種類なのか、それとも同じ種類の子どもと大人の違いなのか?」

モンタナ州から発見される、質・量ともに優れた恐竜化石たちがその答え



ティラノサウルスの頭骨

を教えてください。

この特別展に登場する恐竜は、白亜紀後期の恐竜たち。誰もが名前を知っているティラノサウルスをはじめ、トリケラトプス、ヒパクロサウルス、そしてパキケファロサウルスという、恐竜の中でも特に有名な4種類をピックアップします。

世界最大のティラノサウルスの頭骨(実物)や、トリケラトプスの頭骨(実物)などをはじめとする、日本初公開となる標本の数々。さらに、テーマにあわせて製作された、(株)ココロによる最新の恐竜ロボットたち。『本物』と『ロボット』のコラボレーションにより、他では見ることができない興奮をお届けできると確信しています。

7月10日(日)にはジャック・ホーナー博士の講演も予定しています。あわせて、ぜひお越しください。

(柴田正輝)

福井県産竜脚類フクイティタンとは

2007年7月、福井県勝山市北谷にある恐竜発掘現場で長さ80cmを超える大きな骨化石が発見されました。それから3年後の2010年6月、その大きな骨の正体が明らかになりました。

大型植物食恐竜の竜脚類「フクイティタン・ニッポネンシス(*Fukuititan nipponensis*)」。それがこの恐竜につけられた名前です。

Fukuititan(Fukui-福井, titan-ティタン:ギリシャ神話の巨神族に由来)と名付けられたこの竜脚類は、種小名



発掘した大腿骨を運ぶ(2007年8月)

*nipponensis*とあわせて「日本産の福井の巨人」という意味になります。この「titan」という名前は、竜脚類の「大きさ」を表現するものとして、竜脚類の名前によく使用されます。

フクイティタンが、新しい種類として認められたのは、この種類特有の特徴があったためです。フクイティタンの場合、まず、歯はブラキオサウルスのものに似ていますが幅が狭く、他のティタノサウルス形類(竜脚類の大きなグループのひとつ)よりは幅が広く

なっています。次に、尻尾の先の方の尾椎の神経弓が前方に位置することなどはティタノサウルス形類の特徴であり、また、尾椎の形状は遼寧省から発見されているポレアロサウルスに似ています。

このような特徴により、日本では初めての新種として認められた竜脚類となりました。

フクイティタンは限られた部位しか発見されていないため、どのような竜脚類であったのかは詳しくは分かっていません。しかし、大腿骨や上腕骨の大きさなどから、全長が10m程度の、竜脚類の中ではあまり大きくない種類だったと考えられます。

発掘現場にはフクイティタンが発見された地層がまだ奥へと続いています。頭骨や背骨など、未発見の部位がまだまだ眠っているかもしれません。

(柴田正輝)



フクイティタンの大きさを再現した展示(2010年特別展)

続・中国での恐竜化石共同発掘調査

主任研究員 野田 芳和

前号では中国浙江省東陽（ドンヤン）市でのドンヤンゴサウルス・シネンシスの発掘について紹介しました。2010年の中国での恐竜化石発掘調査は、その東陽市で農民が新たな恐竜化石を発見したとの情報から始まりまし。また同じ東陽市の別の場所からも足跡化石が発見されたため、そちらの産地も調査しました。さらに、昨年9月に当館が河南省地質博物館と姉妹提携を結んだことがきっかけとなって、河南省においても両館が共同で発掘調査をすることとなりました。

浙江省東陽市での発掘調査は、9月23日から約3週間、当館と浙江自然博物館、そして中国地質科学院地質研究所と東陽市博物館が共同で行いました。恐竜化石は、東陽市のほぼ中央に位置する村の崖の中腹に産し、上下を火山岩に挟まれた厚さ数mの地層に含まれていました。今回の調査で、保存のよいヨロイ竜類の頭骨や皮骨（装甲板）などが発見されました。

足跡化石産地は、東陽市の西の端にあり、地層をはいで足跡面を出す作業から始まりました。日よけも何も無い炎天下での発掘でしたが、7つの足跡面を発掘し、肉食恐竜の連続歩行跡をはじめ、恐竜（獣脚類、鳥脚類、竜脚類）や鳥、翼竜の非常に保存状態の良い足跡を数多く発見することができました。

浙江省の発掘に引き続いて、10月中旬、河南省へ移動。洛陽市汝陽（ルーヤン）県で当館と河南省地質博物館、そして中国地質科学院地質研究所との共同発掘調査を行いました。元々産出情報があったわけではなく、試掘的な

発掘でしたが、2か所から恐竜の骨化石が見つかりました。この河南省の発掘現場の近くからは、貝化石もたくさん採集することができました。これは汝陽の白堊紀の地層からは初産出で、古環境を考察する上で重要な意味をもつものです。

今年度で中国での恐竜化石発掘調査の現地調査は一段落し、来年度はこれまでの発掘成果の整理と研究を進めます。アジアの恐竜についてはまだまだ研究すべきことがたくさんあります。恐竜博物館は、アジアの恐竜研究の拠点となるよう、今後も共同研究を続けていきたいと思ひます。



恐竜化石の産出状態



河南省での発掘の様子

レストラン「クレタ」のイチオシ!

フクイラプトル丼

1,200円
(税込)

クレタのメニューには恐竜にちなんだものが多いのですが、今回のイチオシ!は当館ならではのフクイラプトルの名前を冠した「フクイラプトル丼」。ハワイの郷土料理ロコモコをアレンジしたもので、白飯の上に目玉焼きとハンバーグがのり、その上から特製デミグラスソースがかかっています。前号もご紹介したこの絶品ソース。素朴な丼ものを美味しい洋食メニューにしてくれています。展示室のフクイラプトルを思いながら食べてみてください。



ミュージアムショップのオススメ商品から

ラプトルフィギュア

1,260円
(税込)

食玩などフィギュア制作で有名な海洋堂さんと当館がコラボした、フクイラプトルのフィギュアです。原型は、恐竜造形作家である荒木一成先生が担当。荒木先生は常設展の復元模型制作、恐竜模型展、ふれあい教室の講師などでもおなじみですね。リアルに細部まで丁寧に造形された復元モデルと、全身骨格を精密に再現した骨格モデルの2種類。展示標本をそのままにといった感じで、全長15cmと小さいながらも満足の造形。ショップの大人気商品なのもうなずけます。



※掲載商品については、メニュー入替え、商品入替え等により、お求めになれない場合がございます。ご了承ください。

恐竜博物館カレッジの

ご案内

2011年4月～7月

※参加は無料です。所定の方法にて、行事名、氏名、年齢、住所、電話番号を、博物館までご連絡ください。開催日の一ヶ月前から受付を開始し、定員に達し次第締め切らせていただきます。ただし、申し込み多数の場合は抽選となる場合があります。
※当館Webサイトの行事案内ページ (<http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/event/>) もご覧ください。
※10回参加いただけますと「恐竜博物館カレッジ認定証」を発行いたします。(年度をまたいで可)。

特別展関連行事

- 特別展講演会**
- Dinosaur Shapeshifting
一変身する恐竜たち—
日時/7月10日(日) 14:00～15:30
内容/大人から子どもまでの恐竜のくらしと成長に伴う身体の変化について、恐竜研究の世界の第一人者が詳しく解説します。
講師/モンタナ州立大学付属ロッキー博物館 ジャック・ホーナー博士
場所/講堂
※聴講無料、申し込み不要です。
- 特別展ツアー**
- 特別展の展示解説 第1回
日時/7月24日(日) 13:00～14:00
内容/特別展の素晴らしい標本について、詳しく解説します。
講師/柴田 正輝
場所/特別展示室
対象/20名(特別展観覧券の購入が必要です)
申込/電話、FAX、E-mailにて

キッズコース

恐竜ふれあい教室

- 対象/4歳～小3の親子 15組
担当/博物館職員
場所/実習室
申込/往復ハガキ、E-mailにて
- 親子で化石の消しゴムをつくらう!
日時/4月10日(日) 13:00～14:00
内容/消しゴムになる粘土でアンモナイトと三葉虫の消しゴムを作ります。
- 親子で恐竜キーホルダーをつくらう!
日時/5月8日(日) 13:00～15:00
内容/恐竜の絵や描いた絵からキーホルダーを親子でつくります。
- 親子で恐竜折り紙のジオラマをつくらう!
日時/5月29日(日) 13:00～15:00
内容/折り紙でティラノサウルスなどの恐竜を作り、ジオラマを作ります。
- 親子で化石のレプリカをつくらう!
日時/6月5日(日) 13:00～14:30
内容/石こうを使って、アンモナイトなどの化石の複製をつくります。
- 親子で恐竜パズルをつくらう!
日時/7月3日(日) 13:00～15:00
内容/恐竜のぬり絵がパズルになります。親子でつくって楽しみましょう。
- 親子で恐竜の絵をかこう!
日時/7月9日(土) 13:00～15:00
内容/いろいろな恐竜の特徴をつかんで、恐竜のイラストに挑戦します。
講師/恐竜イラストレーター 山本匠 先生
申込/受付は6/9～16、抽選にて参加者に通知

ギャラリートーク開催

当館研究スタッフが、展示標本を前に30分程度のお話をします。開催日時、集合場所等、当館ホームページのイベント案内をチェックしてください。

ジュニアコース

博物館自然教室

- 場所/実習室
申込/往復ハガキ、E-mailにて
対象/小学生以上 20名
(小学生は保護者も参加)
- 自分の体重を古生物の体重で調べる方法で調べてみよう!
日時/4月24日(日) 13:00～15:00
内容/絶滅した古生物の体重は直接計れません。そのため骨の一部を使って体重を推定します。そのような古生物学者が使う方法を自分の体に当てはめてみたら、どのくらい正確に体重が推測できるか試してみましよう。
担当/久保 泰
- 肉食獣の歯を観察しよう!
日時/5月22日(日) 13:00～15:00
内容/サーベルタイガーやオオカミなど、化石の肉食獣たちの歯のレプリカを作り、肉や骨を噛み砕く機能はどこにあるか紹介します。
担当/宮田 和周
- 微生物の化石を観察しよう!
日時/6月26日(日) 13:00～15:00
内容/身近な岩石にも多くの目に見えない微生物の化石が含まれています。そうした化石を顕微鏡を使って観察してみましよう。
担当/野田 芳和

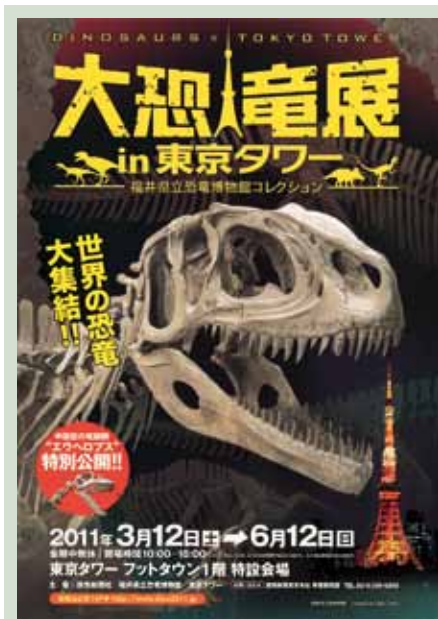
野外観察会

- 石川県の地質と化石
日時/6月12日(日) 9:00～16:00
内容/石川県白山市と金沢市周辺の地層や化石を観察して、その地層ができた頃の環境について学びます。
担当/寺田 和雄、野田 芳和、久保 泰
場所/石川県白山市、金沢市
対象/小学生以上 20名
(小学生は保護者同伴)
申込/往復ハガキ、E-mailにて
(保険代100円をご負担下さい。)

ハブリックコース

博物館セミナー

- 生命の歴史をひもとく
場所/研修室
申込/電話、FAX、E-mailにて
- ①第3次恐竜化石発掘調査を終えて
日時/4月17日(日) 13:00～14:30
内容/2007年度から始まった勝山市北谷での第3次恐竜化石発掘調査は、2010年8月で現地での調査を終えました。ドロマエオサウルス類とフクイティタン(竜脚類)という新しい恐竜が発掘された今回の発掘調査の成果の一部を報告します。
講師/野田 芳和
- ②大陸を移動した植物たち
日時/5月15日(日) 13:00～14:30
内容/地球の長い歴史の中で見てみると、植物も動物と同じように、実にダイナミックに大陸間を移動したことがわかります。恐竜時代の終わり頃から現在まで、北極域を経由して広がった植物たちの歴史についてお話しします。
講師/矢部 淳
- ③長崎の恐竜化石
日時/6月19日(日) 13:00～14:30
内容/「日本初の恐竜化石」はなぜ間違いだったのか。後に本当の恐竜化石はなぜ見つかったのか。九州で発見が続く恐竜化石とその発掘の様子も紹介します。
講師/宮田 和周
- ④ティラノサウルスのくらしとまわりの恐竜たち
日時/7月17日(日) 13:00～14:30
内容/ティラノサウルスと共にくらしたくラトプスなどの恐竜たちの、くらしと成長について詳しくお話しします。
講師/柴田 正輝



東京タワーで恐竜展を開催!

3月12日から6月12日まで、東京タワーで「大恐竜展 in 東京タワー - 福井県立恐竜博物館コレクション -」が開催されます。
恐竜博物館よりすぐりの恐竜標本コレクションから約80点が、日本を代表する観光名所・東京タワーの特設会場に集結します。恐竜学入門から知られざるアジア恐竜の展示、さらには日本の恐竜研究最前線まで、恐竜ファンのみならずすべての人が見逃せない、2011年の「恐竜展」決定版です!
首都圏のお知り合いの方にぜひご紹介ください。

Dinosaurs 恐竜博物館ニュース 第32号(第1巻6号) 発行日:平成23年3月15日発行
発行:福井県立恐竜博物館 〒911-8601 福井県勝山市村岡町寺尾5-11
印刷:朝日印刷株式会社

TEL: 0779-88-0001(代)
FAX: 0779-88-8700
URL: <http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/>
E-mail: info@dinosaur.pref.fukui.jp

